静 岡 新 聞　2011 年 8 月 24 日

復興願い「心の架け箸」大作戦 大学生有志呼び掛け

東京都内などの大学生有志が２１日、静岡、浜松両市の繁華街で、東日本大震災の被災地支援を目的とした「心の架け箸大作戦」を展開した。被災地復興を願うメッセージを添えたリサイクル箸を配布し、発生から半年の節目を前に「震災を忘れないで」と呼び掛けた。

活動はチャリティー基金付きリサイクル箸の販売を通じてボランティア活動を推進する京都市の一般社団法人「メビウスハート」が呼び掛けた。インターネットでつながった学生８人が参加し、２０日に東京を出発。電車でゴールの京都へ向け移動しながら、各地でキャンペーンを行っている。この日はＪＲ静岡、浜松両駅の前でのぼり旗を立て、赤や緑、黄色など色とりどりのプラスチック製リサイクル箸を買い物客らに配った。

山梨県の短大生川口塔子さん（２１）は「被災地の復興には関心を持ち続けてもらうことが重要。箸を見るたび、思い出してもらえるよう多くの人に配りたい」と話した。

心の架け箸大作戦

2011 年 8 月 22 日　中 日 新 聞

リサイクル箸 復興のかけ

メビウスハートが販売

京都 社団法人「メビウスハート」（京都市）が、東日本大震災の被災地支援と、リサイクルできるプラスチック箸の普及活動を兼ねたプロジェクトを、京都などで進めている。

その名も「復興のKAKEHASHI（かけはし）プロジェクト」。ピンクや緑、青など六色のリサイクル割り箸を一膳二十円で販売し、うち五円を被災地に寄付する仕組みで、六月半ばから始めた。

現在は京都市内を含む約三十の協力店でこの箸を置き販売。十二万円の寄付金を確保したほか、被災地にも箸約五万五千膳を送った。山村訓弘（くにひろ）会長（五三）は「小さいお金だが、十年、二十年と、コツコツ長く義援金活動を続けていきたい」。

反応も上々だ。八月からレジ横やテーブルにお箸を置きだした京都市下京区の「ピアレストラン・ライオン四条烏丸店」の小堀義正支配人は「面白い取り組みですし、子ども連れのお客さまを中心に結構買って帰られるんですよ」と話す。

箸の問い合わせは、メビウスハート＝電０７５（８６５）０３７９＝へ。（芦原千晶）

飲食店のレジ横などに置かれるカラフルなリサイクル箸＝京都市下京区で

2011 年 8 月 25 日　朝 日 新 聞

復興支援 架け「箸」

東京→京都、学生各地で配る

東日本大震災の避難所に箸を送る活動を知ってもらおうと、東京の大学生ら8人が24日、京都市内を訪れ、復興のメッセージが入った箸を道行く人に配った＝写真。「心の架け箸大作戦！」と銘打ち、来月で震災半年を迎える被災地への支援の継続を訴えた。

学生たちは20日に東京で配り始め、横浜、静岡、名古屋、大津などを巡って最終地の京都へ。各地で計約8千本を人々に手渡した。7月にツイッターなどで今回の計画を呼びかけたところ、各地から学生が集まって実現したという。

東京大大学院2年の福田浩士（ひろし）さん(24)は「受け取ってくれる人たちの温かさを感じた。被災地のことを忘れず支援してほしい」と話した。（遠藤和希）